

国語教育 第122号

都小国研多摩地区研究会事務局

全小国研東京大会の開催と多摩地区研究会の取組について

東京都小学校国語教育研究会
多摩地区研究会会長 山崎 尚史
(青梅市立河辺小学校長)

東京都小学校国語教育研究会多摩地区研究会（以下、多摩地区研究会）は、多摩地区の国語教育の充実と子供たちの豊かな言語生活の実現を目指し、「話すこと・聞くこと部」「書くこと部」「読むこと部」の3部構成で、授業実践を通じた研究に取り組んでいます。

さて、都小国研では令和8年11月19日～20日に開催される「全国小学校国語教育研究会東京大会」に向けて、令和5年度より「他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語教育」を研究主題に掲げ、3カ年計画で研究を進めてまいりました。

1年目（令和5年度）：「言葉による見方・考え方を働かせる学びをつくる」

2年目（令和6年度）：「身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」

3年目（令和7年度）：「学びを通して身に付けた言葉の力を日常生活に生かそうとする」

多摩地区研究会でも同様のテーマで研究を積み重ねてきました。目前に迫った東京大会では、3年間の研究成果を再構成し、参加者の皆様に分かりやすく伝わるよう発表を以下の通り行います。現在各部とも準備を進めています。

東京大会における多摩地区研究会の発表内容

公開授業（書くこと部） 会 場：品川区立大井第一小学校（3年生のクラスをお借りして実施）
单元名：たから島の地図から広がる私のぼうけん
～〇〇が伝わる言葉を選んで物語を書こう～
授業者：小金井市立本町小学校 主任教諭 木村 千恵

実践発表（話すこと・聞くこと部）会場：台東区立松葉小学校
対象学年：5・6年
内 容：求めて関わり、自他の充実を目指す話し合い
～明日から使える スピーチ・話し合いの指導の手立て～
指導助言者：東京都小学校国語教育研究会参与 井上 紋子

実践発表（読むこと部）会場：品川区立大井第一小学校
対象学年：5・6年
内 容：子供主体の授業づくり3つのポイント
～学び方が身に付く高学年の文学的な文章の学習～
指導助言者：東京都小学校国語教育研究会顧問 井出 一雄

これまでの研究の結晶となる発表です。ぜひ東京大会にご参加ください。お申し込みは都小国研ホームページまたは各校に配付する最終案内からすることができます。どうぞよろしくお願いいたします。

令和8年度 都小国研多摩地区研究会 総会報告

令和8年度都小国研多摩地区研究総会が、4月30日（木）青梅市立河辺小学校で開催されました。

- 1 挨拶・来賓紹介 都小国研多摩地区研究会会長 山崎尚史
- 2 議事 (1) 令和7年度活動報告 令和8年度活動計画
(2) 令和8年度役員・事務局承認
(3) 新会長挨拶

3 令和7年度活動報告

【話すこと・聞くこと部】

「求めて関わり、自他の学びの充実を目指す話し合い」

单元名 「つなごう役割のバトン！めざせ、よりよい学校生活」
～考えを出し合い、まとめる話し合いを通して～
学習材 「よりよい学校生活のために」（光村図書 5年）
授業者 府中市立若松小学校 飯島 加奈子 主任教諭
講師 東京都小学校国語教育研究会顧問 邑上 裕子 先生

5年生の3学期、「最高学年に向けてレベルアップしよう」をキーワードに、自分たちで話題を決め、話し合いを行った。単元の前半でこれまでの話し合いの学習を振り返り、今の自分の力を自覚し、本単元で身に付けたい力を明確にできるようにした。その上で、自分とグループの話し合いのめあてをそれぞれ設定し、主体的に学びを進められるようにした。単元では、学級全体で話題を決める話し合いを行った後、グループでの話し合いを2回設定し、1回目の振り返りを生かして次の話し合いを行うことで、効果的に話し合いの力を高められると考えた。また、「話し合いをまとめる」ことに課題があると考えている児童が多いという実態から、実際の話し合い活動の前に、モデル動画を基に、話し合いのまとめ方をグループで考える活動を行った。

当日の授業では、学級で決めた「団結力を高めるためにできることを話し合おう」を話題に、グループでの話し合い活動を行った。テーブルシートを活用することで、どの児童も理由を伝えながら積極的に考えを出し合い、よりよい意見にしようと粘り強く話し合う姿が見られた。協議会では、児童の話し合いの力を高めるために、テーブルシートやモデル動画をどのように活用したらよいか意見が出された。講師の邑上先生からは、話題の設定や話し合いの力の積み重ねについて、また、単元で身に付けた力が他の単元や教科とどのようにつながる具体化し見通しをもって指導することの大切さをご指導いただいた。（文責 森永佳代）

【書くこと部】

児童の深い学びを目指す、主体的・対話的な書くことの単元づくり

单元名 「たから島の地図から始まる私のぼうけん」
～〇〇〇〇が伝わる言葉を選んで物語を書こう～
学習材 「たから島のぼうけん」（光村図書 3年下）
授業者 小金井市立本町小学校 木村 千恵 主任教諭
講師 武蔵野教育研究所代表 細川 太輔 先生

「たから島の地図」から想像を広げ、自分を主人公とした物語を考えて書く活動を通して、出来事の様子や登場人物の気持ちが伝わるよう、書き表し方を工夫する力を高める単元学習を設定した。記述する学習過程に重点を置き、4年生への読み聞かせをゴールとした単元学習を構成し、相手がどのように感じる物語を作りたいかを考えることで、目的意識を明確にして取り組むことができるようにした。また、地図の上で紙人形を操作してペアで交流することで、友達との対話のよさやお話づくりの楽しさを感じながら、伝えたいことをはっきりさせたり、想像を広げたりできるようにした。さらに、書き表し方の工夫が不十分な文例の提示、既習事項や書き出しの優れた文章及び「言葉の宝箱」等を参考にして書き表し方を工夫する必要性を実感しながら学習できるようにした。

当日の授業では、動画を用いて書き表し方を工夫する必要感を高め、書き表し方の工夫が不十分な文例とよい文例を比較することで、登場人物の気持ちや出来事の様子を詳しく書くことを意識できるようにした。紙人形を動かして再考したり、動画や掲示を参考に書き進めたり、友達と推敲したりなど、自己調整学習を進める姿が見られた。研究協議会では主に手だての有用性について協議し、講師の細川先生からは、ペアの組み方や中心を詳しく書くことについて、実際にペアトークを行いながら具体的に指導いただいた。（文責 山崎 由紀子）

【読むこと部】

自立した学習者を育てる読むことの指導

单元名 「物語の卒業旅行 『海の命』からメッセージを受け取ろう」
～読みの計画を立て物語の世界をとらえて～
学習材 「海の命」（光村図書 6年）
授業者 府中市立小柳小学校 山崎 龍一 教諭
講師 東京都小学校国語教育研究会顧問 井出 一雄 先生

自立した学習者を育てるために、小学校生活6年間の学習経験を生かして学習計画を立て、主体的に作品の主題を捉え読み深めることを目指した。そのために、児童が学習材を読んだときにどのような疑問をもつのかという観点で教材分析を行い、単元全体に関わる学習課題を児童が主体的に作成するための手だてを検討した。さらに、学習課題に適した「読みの三つの柱」を児童自ら選択し、主体的に読み進めていくことを重点として研究を進めた。

〈読みの三つの柱〉・・・①「手がかり」（叙述）②「読み方」③「まとめ方」

本単元では、「海の命」が自分たち読み手に何を伝えようとしているのかを捉えて自分なりの考えをもつために、皆の疑問を整理し学習課題を児童自身が設定した。さらに学習課題を解決するために「読みの三つの柱」を生かして学習計画を立て、既習の学習経験を基に自ら読み進め主題を捉えた。

当日の授業では、前時から本時まで成熟した児童個々の疑問を整理し、共通していた「海の命とは何か」という疑問が題名であることにも着目し、「作者からメッセージを（主題）を受け取る」という単元全体の学習課題を作成した。学習課題の解決のために個々の疑問について考えがもてるように、自ら読みの計画を立てその理由を共有した。講師の井出先生からは、作品の内容解釈に偏らず、指導事項に重点をおく指導の大切さや、児童が主体的に読み進めるための授業改善についてご指導いただいた。また、既習の「読みの三つの柱」を児童が常に確かめられる教室環境についてもご指導いただいた。（文責 田中静香）

講演「他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習～次期学習指導要領を見据えて～」

(1) 昨年度の振り返り

○話すこと・聞くこと部

言葉を通じた自己表現や他者との関わりにより生活を充実させることが、豊かな言語生活の実現につながるとしていた。

○書くこと部

「対象」と「言葉」を往還・比較検討し、その関係性を言葉で理解・説明することで見方・考え方を働かせると発表していた。

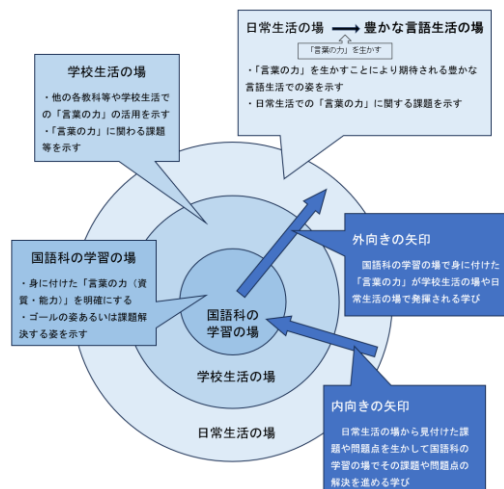
○読むこと部

学習課題に対して「手がかり」「読み方」「まとめ方」の3つの柱で思考し、叙述を基に読み進めていた。

○単元の創造について：「国語科の学習」「学校生活の場」

「日常生活の場」を往還できる単元づくりが重要である。資質・能力ベースでの往還、または生活上の課題から単元を構想することが豊かな言語生活へとつながる。

図 「言葉の力」を生かすことで、豊かな言語生活を実現することについて



参考 「豊かな言語生活を育てる ―国語の単元開発と実践―」 桑原隆 編著

(2) 令和7年度多摩地区研究報告を受けて

○話すこと・聞くこと部

- ・単元「つながり役割のバトン！」は最上級生としての課題意識を活かした必然性のある話題設定であった。最上級生になる児童のやる気を話し合いにつなげられていた。
- ・既習事項の「確認表」による現状把握を各自の課題設定につなげていた。子供たちに身に付いている力や、学校行事や子供の状況を加味して単元をつくっていくといい。
- ・大井第一小の「学びのアルバム（ICTによる振り返りの蓄積）」のように、単元の学習記録をデータで蓄積し児童自身が精選することは、次期学習指導要領を見据えた「学びに向かう力・人間性」の見取りや他教科への活用、成長の自覚化、保護者への共有にも有効である。

○書くこと部

- ・「個から他者と協働する学びへ」というアプローチは、正解のない社会を生きる子供たちに必要である。他者と関わり合いながら書く力を高め合う経験はとても大切。
- ・作品の読み合いや掲示、家庭や下級生への読み聞かせなど、単元を越えて言語生活を豊かにする具体的な実の場が示され、書くことが日常生活へとつながる手だてが工夫されていた。
- ・言葉の良さを実感する「読んだ人を幸せにする」という視点が素晴らしい。今後は授業での学びがどう日常生活に還元されたか、変容した子供の具体的な姿として発信するとさらによい。

○読むこと部

- ・「物語の卒業旅行」という単元名には深い読みに迫る授業者の意気込みが感じられ、共感力や自己理解、言語能力の向上といった文学教材の価値をしっかりと捉えていた。
- ・事前の教材分析により教師が手がかりや読み方を意識し、明確な助言を行っていた。また初発の後に時間を十分に確保し、子供自身が学習の見通しをもてるよう工夫されていた。
- ・児童が課題解決の手法を自ら選択し、必然性をもって他者と関われる手だてが用意されていた。教科書を教

えるのではなく、児童の側から学びを捉え直すという授業者の姿勢が素晴らしい。

(3) 次期学習指導要領との関連および今後の研究に向けて

1 主体的・対話的で深い学びの実装

深い学びの実現には、単なる抽象的な概念の理解にとどまらず、すべての授業において子供たちが知識を関連付け、日常の様々な場面で活かせる「知恵」のようなものとして身に付けていくことが求められる。国語科の中で培った思考力・判断力・表現力を教科内の枠にとどめることなく、他教科や日常生活で活かせるようにしていくことが「豊かな言語生活の実現」に確実につながる。

2 「多様性の包摂」

学校現場には、多様な子供たちが在籍している。すべての子供たちに対して、言葉による見方・考え方が働くような教育の質を確保せねばならない。そのためには、子供と教師の双方に「余白」が必要である。教育課程の中に意図的な時間的余裕を確保することで、子供たちはその時間を学びや活用に活かすことができるようになる。

3 「実現可能性の確保」

生涯にわたり主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら持続可能な社会の創り手となる子供を育てるためには、本気で学びたい言語活動の工夫が不可欠である。

例えば、1年「じどうしゃくらべ」において、「仕事とつくり」という具体と抽象を往還する資質・能力を身に付けさせることが本質であるならば、最後に作る図鑑は自動車でなくてもよい。子供たちが学校探検で実際に目で見て触れた理科室や校長室などの構造を基に「〇〇小学校教室図鑑」を作る単元を構想することもできる。自分が体験したことや日常生活に活かせる生きた言語活動を仕掛けることこそが、多様な子供たちの深い学びを確かなものにする。多摩地区はすでにこうした先進的な実践を行っているため、今後はこれらを次期指導要領の視点と重ね合わせて発信していくことが求められる。

4 その他（研究部からの要望）

- ・各部会の研究主題が、都小国研全体の主題とどのように連動しているか、参列者へ明確に説明できるようにすること。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実、探究的な学びを意識し、指導案のブラッシュアップを図ること。
- ・3年間の研究蓄積の中で、全国の参加者に最も伝えたい多摩地区のポイントを「焦点化」すること。

4 閉会の言葉

都小国多摩地区研究会副会長 所 水奈

令和8年度役員・事務局

会長		山崎 尚史		青梅市立河辺小学校 校長
副会長	部長	忍足 留理子	話すこと・聞くこと	府中市立府中第二小学校 校長
		薄井 智美	書くこと	町田市立町つくし野小学校 校長
		田村 香代子	読むこと	府中市立府中第七小学校 校長
		前田 元	話すこと・聞くこと	西東京市立けやき小学校 校長
	副部長	所 水奈	書くこと	狛江市立狛江第一小学校 校長
		松井 優子	読むこと	青梅市立若草小学校 校長
		事務局長		白倉 裕子
事務局次長		森永 佳代	話すこと・聞くこと	小平市立小平第六小学校
		山崎 由紀子	書くこと	国立市立第七小学校
事務局員		宮崎 弘美	話すこと・聞くこと	小金井市立小金井第二小学校
		飯島 加奈子	話すこと・聞くこと	府中市立新町小学校
		木村 千恵	書くこと	小金井市立本町小学校
		生田 寛昌	書くこと	府中市立四谷小学校
		田中 静香	読むこと	立川市立第六小学校
		後藤 千恵子	読むこと	町田市立町田第四小学校
		八谷 未央	読むこと	東村山市立八坂小学校